



サウジアラビア：イエメンのフーシー派の拠点を空爆

3月26日午前2時（現地時間）、サウジアラビア空軍が、イエメンのフーシー派の拠点であるサナアの空軍基地などを空爆した。ジュベイル駐米サウジ大使は、（ハーディー大統領によるイエメンの）正統な政府を守るため10カ国からなる有志国が軍事作戦に参加した、サウジアラビアは米国と事前に協議はしていたものの米国は軍事作戦には参加していないと述べた。また、同大使は10カ国の具体的な国名は明かされなかったものの、湾岸アラブ諸国が作戦に参加していると述べた。

評価

現時点で、イエメン空爆に関して駐米サウジ大使以外からの公式発表は存在しない。空爆の規模、サウジアラビア以外の国の作戦への関与度、軍事作戦の具体的目標、今後の軍事作戦の継続の見通しについてはいずれも不明である。

イエメン情勢の緊迫化に伴い、サウジアラビアを始めとする湾岸諸国の動きは活発化していた。3月12日に開催されたGCC外相会合、3月21日にはオマーンを除くGCC各国の首脳級要人会合がリヤドで開かれ、イエメンの全政治勢力を含めた政治対話の開催を進めていくことが表明されていた。他方、3月23日にはイエメンのヤーシーン外相がGCCに軍事介入を要請しており、サウジのサウード・ファイサル外相は「（イランの）侵攻から地域を守るために必要な手段をとる」と述べていた。3月24日付の『ロイター』では、サウジ軍が装甲車や迫撃砲などをイエメン国境沿いに移動させていると報じていた。

イエメン情勢を巡っては、フーシー派を支援すると見られているイランの存在が問題を複雑にさせている。サウジアラビアとイランの間では、シリア・レバノン・イラク・イエメンといった周辺国において地域覇権を巡る争いが繰り広げられており、イエメンでの危機もその一環となっている。サウジアラビアにとって、フーシー派がイエメンで実権を握るというシナリオは、自国の南部にイランの橋頭堡が築かれることを意味している。これは、2003年以降、北部にイランの影響力が増したイラクの出現を許したことと同じ轍を踏むことに他ならず、サウジがイエメン情勢を巡って強硬な対応を取る誘因を高めている。今回の空爆により、サウジとイランの間の緊張が高まることが予想されよう。

（村上研究員）

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.mei.j.or.jp/>